


分野	53	循環型社会	通番 131
施策	531	低炭素社会への転換	
5年後の目標		省エネルギー、再生可能エネルギーの普及など、低炭素社会への取り組みが進み、環境への負荷がさらに低減している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	省エネ・省CO₂整備推進事業		会計	款	項	3,936,871	環境政策室
			一般	4	1		
事業の概要							
市域全体で地球温暖化問題に取り組むため、地球温暖化対策実行計画に基づく施策展開と進捗管理を進めます。市域の温室効果ガス排出量の削減のため、省エネルギー及び再生可能エネルギー設備の情報提供や設置助成を実施します。							


平成30年度の取組							
D (取組)	指標(H29年度～)	再生可能エネルギーの世帯当たりの普及率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	3.40(平成27年度)	目標	4325kWh/年 (1世帯あたりの 平均電気使用量)	3.63	3.90	4.18	4.45
		実績	—	3.61	4.14		
<ul style="list-style-type: none"> 第二期環境基本計画実施計画及び地球温暖化対策実行計画の進捗管理及び、次期実施計画、進捗管理表の策定を行いました。 電気自動車の管理と普及啓発を行いました。 地球温暖化防止に寄与する活動として、薪ストーブ購入設置補助金、西山産薪購入補助金、住宅エコリフォーム補助金、住宅用自立型再生可能エネルギー導入事業費補助金の啓発を行い、補助を実施しました。 					薪ストーブ		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成30年度の達成状況					
C (評価)	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応頁	
	評価指標	温室効果ガス排出量	温室効果ガスの排出量は経済活動の影響を受けるものの、平成21年度までは、減少してきたが、平成23年に起きた東日本大震災の影響により、火力発電の増加によって化石燃料消費量が増えたため、電気の排出係数が上昇している。その結果、温室効果ガスの排出量は増加傾向に転じている。		213
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 住宅用自立型再生可能エネルギー導入事業費補助金の周知が特に図れたと見られ、年内に予算の枠に到達し、受付終了となりました。 補助実績としては、薪ストーブ購入設置補助金が3件(300,000円)、西山産薪購入補助金が605束(121,000円)、住宅エコリフォーム補助金が6件(327,000円)、住宅用自立型再生可能エネルギー導入事業費補助金が9件(2,927,000円)となりました。 	
課題等	補助メニューによっては申請が低迷しており(住宅エコリフォーム補助金)、補助条件が専門的で市民にとって利用しにくいのではないかと考えられます。				

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> 省エネ・再エネ促進に係る補助制度を引き続き継続し、制度周知のため啓発を行います。特に住宅エコリフォーム補助金に関しては、室内の温度変化に直結する「窓」のリフォームに特化した制度改正を行い啓発することで、市民にとって利用しやすいものにします。 補助金交付以外にも省エネ・再エネ促進の方法はあるため、そういった取り組みの周知を継続的にいきます。

分野	53	循環型社会	通番 132
施策	531	低炭素社会への転換	
5年後の目標		省エネルギー、再生可能エネルギーの普及など、低炭素社会への取り組みが進み、環境への負荷がさらに低減している。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	環境への意識向上推進事業		会計	款	項	目	56,235	環境政策室
			一般	4	1	8		
事業の概要								
低炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルをあらゆる世代の人に浸透させるため、市民、事業者、学校等と連携しながら環境に関する様々な広報、イベント・学習会の開催などに取り組みます。また、公共交通機関の利用などエコライフの啓発にも取り組むとともに、環境問題に取り組む団体や事業者に対しても活動を支援します。								

平成30年度の取組							
D (取組)	指標	環境学習会等の開催回数・参加者数				単位	回・人
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	9回 280人	9回 285人	9回 290人	10回 310人	10回 315人
	9回 276人 (平成26年度)	実績	8回 289人	8回 229人	11回 307人		
				第5回長岡京環境検定			
<ul style="list-style-type: none"> 「買い物ゲームで遊ぶ かしこ暮らしっく」をテーマに環境講演会を実施し、食べ物の輸送に係るCO2（フードマイレージ）について理解を深めました。イベントがマンネリ化しないよう、また、若い世代にも参加してもらおうとゲーム形式の楽しんでもらえる講演会としました。 自然の美しさを感じていただくことを通して、自然への愛着と環境保護意識を醸成しようと、スターウォッチング（夏・冬）とバードウォッチングを実施しました。 広報長岡京を主な出題範囲として、長岡京市の環境に特化した検定「長岡京環境検定」を実施することで、本市の環境施策への理解を深めてもらうきっかけとしました。 計5回の出前講座を通して、地球温暖化問題や本市の環境施策の啓発を行いました。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成30年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—		—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 要請に応じて訪問する出前講座の回数が増えました(3→5回)。それにより市民の環境意識の高まりを知ることができました。 温暖化問題や自然環境など多様なジャンルの学習会を、多様な層へ啓発するイベントを通して、市民の環境意識の醸成が図れました。 	
課題等	既に環境意識の高い層の参加が多い状況ですが、子どもやその保護者など、環境について意識することの少ない層へいかに啓発するかが課題です。				

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> 引き続き幅広い年代に向けてイベント等を実施します。 講義形式だけでなく、参加型のイベントを通して、子どもやその保護者など、普段、環境について意識することの少ない層への啓発をします。 環境団体や企業、他部署などと連携した啓発を今後も推進していきます。